

## 新人大会

私が中学校の部活動で、初めて大会に出場できたのが「福島支部中体連新人大会」でした。一般的には「新人戦」と呼ばれているものです。

顧問の先生が、新人大会に出場する選手の名前を発表しました。私の名前が呼ばれました。まだ1年生だった私は、それはそれはうれしかったものです。元気よく「ハイ」と返事をしました。

緊張しながらも意気揚々（いきようよう）と大会に臨みました。ところが、いざ試合になると、全く思うようにはいきません。相手は2年生です。自分のイメージ通りには、試合は進みませんでした。＊意気揚々（いきようよう） 誇らしげに得意そうにふるまう様子

こちらは考えてボールを打つのですが、相手が粘（ねば）ります。一進一退の接戦が続きました。最後は根（こん）負けでした。きっと勝利への執念（しゅうねん）が、相手のほうが上だったのだと思います。技術では負けてはいませんでした、気持ちの差でした。

この敗戦から、本番での試合は、学校での練習とは比べものにならないほど違うこと、練習試合とは別物であることなどを学びました。練習試合の結果など、本番では関係のないことも分かりました。

私は、楽しく一生懸命部活動に取り組んでいました。その結果、選手に選ばれたことはよかったのですが、それで満足してはいけないことを知りました。新人大会の敗戦から、自分の学校以外の“レベル”というものを学びました。

それからの練習では、他の学校のことを意識するようになりました。より高いレベルを目指すようになりました。本屋さんでソフトテニスの本を買って読みました。専門の雑誌も読みました。そこには、一流選手のフォーム（打ち方）の分解写真があったり、全国規模の大会の様子などが出ていました。練習方法の紹介もありました。何となく見るのと、本気で読むのでは、吸収の度合いが全く違ってきます。練習中も、自分の打ち方や戦術を研究するようになりました。

たった一度、大会に出ただけなのですが、私の部活動は劇的に変わりました。見た目はさほど変わっていないかもしれませんが、意識や考え方、取り組み方が変わったと思います。何よりも、目指すべきものができました。試合に出るという目標が、勝ちたい、強くなりたいというものになりました。

今では、どの競技も中体連以外にも大会があり、私が経験したことは参考にならないかもしれませんが、それでも、中体連の大会が本番の大会であることには変わりはないと思います。

その本番の大会が、新型コロナウイルス感染症拡大により、あわやなくなるころでした。ところが、様々な人たちの努力により、10月7日（木）に開催されることとなりました。練習時間が1時間程度という制限の中で、どの部活動も、どの選手も苦勞をしてきたことと思います。だからこそ、大会がある、大会に出られるという喜びを胸に、ぜひいい“経験”をしてほしいと思います。新人大会は、成長のための大事なステップとなります。1・2年生の活躍を楽しみにしています。